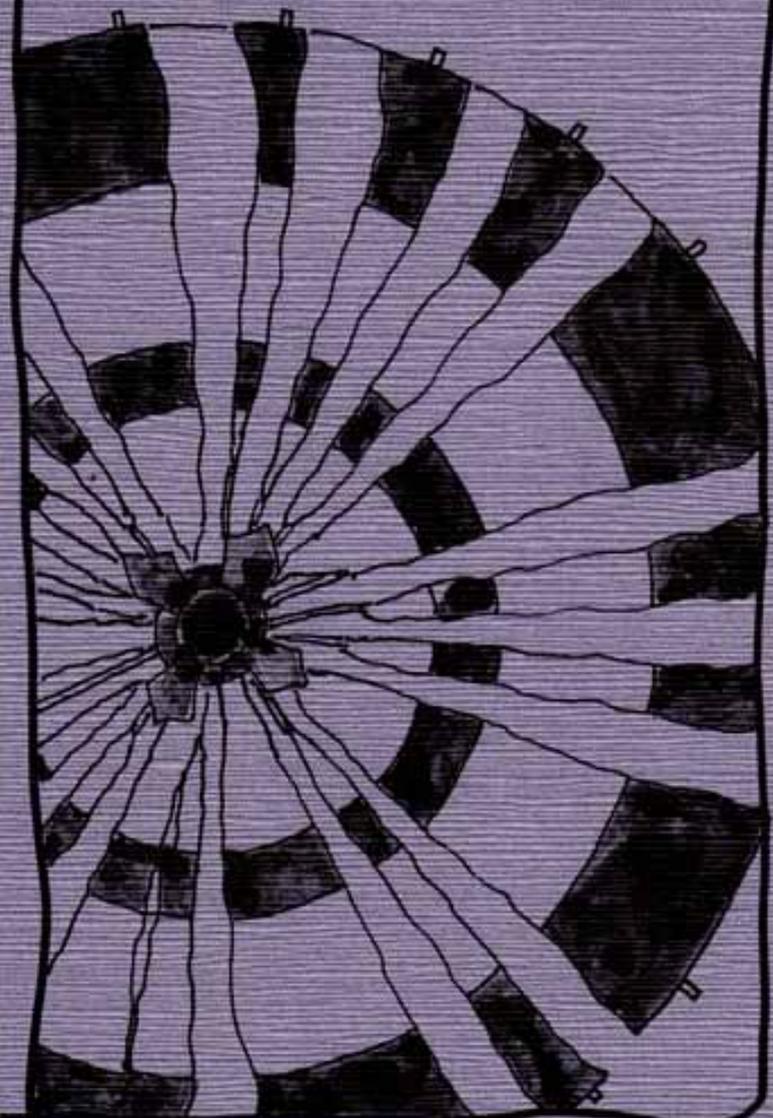


やぶれ傘



1110号
二〇二二年六月

にはとりのほつつき歩く柿の花 根橋宏次
 青梅をついでのやうに蹴つてゐる きくちきみえ
 シーソーに雀が止まる暮の春 大島英昭
 時計屋がルーベをはづしゐる立夏 丑久保 勲
 ひさびさに街に出てみる薄暑かな 廣瀬雅男
 鶴首に今日咲きさうな椿活け 瀬島酒望
 藻の花の上越す水をみてゐたる 青谷小枝
 若楓空き家の庭に椅子がある 藤井美晴
 教会の前で爆竹復活祭 天野美登里
 麦秋の畑の道に車椅子 白石正躬
 ボタン押せば車列が停まる春の昼 渡邊孝彦
 ざつくりとコロツケ揚がる花大根 有賀昌子
 夏の雨今日はパズルがよく解ける 小山よる
 午後二時の下校の報せ豆の花 秋山信行
 一堂に会する牡丹しづかなる 安藤久美子

抄集句 傘紀 大崎 選

花の名を思ひ出しつつ春の道 松村光典
 路線バスを追ひかけて行く花吹雪 山本久枝
 ふた畝のふくふくとして葱坊主 吉田幸恵
 産院前ピンクのばらと父と子と 岩藤礼子
 春昼のカッコウ時計三度鳴る 江口恵子
 鍵かけてなにかためらふ花曇り 亀岡睦子
 白藤の花房肩にとどくほど 木村瑞枝
 夕薄暑角の取れたる診察券 倉澤節子
 春の雨柿の木坂を下りゆけば 小巻若菜
 花と葉が入れ替はる頃水温し 坂本和穂
 春の街軽きリュックは草木染 柴崎和男
 菜の花に駆けゆく子等に駆けてゆく 貫井照子
 ゆつくりと風車の回はる麦の秋 野口希代志
 車椅子花盗人を連れかへる 日高みち子
 飛んで行くしやぼん玉には空がある 武藤節子

村 祭りにどたばた芝居ありにけり
 薪 能摺り足の音強く弱く
 筍 に太きと細き共にあり
 初 鰹大き切り身を大皿に
 友の便り文と新茶のふたつあり
 安齋正蔵

犬の背に温き日差しの当たりけり
 初 蝶の庭に来てゐるおひる時
 故 郷の除染進まらず山桜
 小 流れへ石段三つ芹を摘む
 春 浅き土手でついばむ群れ雀
 土 手下に小さき渡船場猫柳
 犬 ぶぐり園児は土手を駆け上がり
 石塚清文

雑 木山伐採あとの葉ゆる
 花 董母より先に子が見つけ
 畝 もなく茎立つ菜畑風が吹く
 陽 が上がり屋敷の森に竹の秋
 日 差し落ち頭に上げるサングラス
 年 ふりて寝るに寝られぬ夏の風邪
 順 序よく軽鼻の子わたる用水路
 石原健二

麦 青しひたすら道を柳川へ
 桜 ちらほら昼飯はざるうどん
 草 餅の指にちよつぴりべたついで
 順 々に瀬にのまれゆく花筏
 酒 二合竹の子飯に刻み海苔
 雲 に富士山かくれて郷は桃の花
 新 緑や金谷ホテルの白き壁
 泉 一九

ネットかけ鞆置く宿桃の花
 稲田延子
 防波堤の子らの描きし絵に春日
 かけ声で山車引き回す男たち
 レンタルの祭衣装といつてをり
 梅雨晴間ビルの明かりも艶めける
 扇風機に髪くすぐられレモンの香
 ビル改修のシートをつたふ夏の雨

岩藤礼子

産院前ピンクのばらと父と子と
 桜餅に桜の花がひとつづつ
 花曇コーヒーに殻に針を刺し
 行く春を病める小三治吉右衛門
 すれすれにピユツと自転車夏近し
 払つてもまた払つても蜘蛛の囀は
 此処までは縄文の海花は葉に

春昼のカッコウ時計三度鳴る
 江口恵子
 花筵すこし甘めの卵焼
 助手席にうとうととす花疲れ
 春キヤベツ付箋のついた料理本
 花の名を確かめ歩く暮の春
 ちりめん小富士の雪形うさぎ現る
 吾妻小富士の雪形うさぎ現る

枝みや子

兄の遺影にうつすらと春埃
 何もせず時が過ぎゆく春の夕
 小でまりを揺らしてゐたる雀かな
 白藤を眺める先に青き空
 雨に濡れ葉桜はなほ色を濃く
 軽鴨の親は七羽を引き連れて
 ゆつたりと蘭鑄泳ぐ昼下り

倉澤節子

蛇がとび手押しポンプのコキコキと
白い根の伸びて窓辺のヒヤシンス
店先に山積み古書春遅し
えごの花こぼれ玉川上水路
按配のよき切株に座して夏
夕薄暑角の取れたる診察券
落し文鳩がしづかに歩み去る

黒澤次郎

揚げ雲雀下に山家の一軒家
快晴の空が黒ずむほどの春
風待ちのタンポポの絮ここに
彼岸入り農夫一人が畑に立つ
菜の花の土手を背にして鷺一羽
用水の岸に並んでチューリップ
隣人に叙勲の沙汰や牡丹咲く

小池一司

雨上がりに頭上掠める初燕
囀りを集め大樹のゆふまぐれ
今年また寺に見にゆく遅桜
古き実も残されてをり夏蜜柑
ぞろぞろと羽蟻這ひ出る走り梅雨
軒低き商店街を夏つばめ
ひよろひよると烏柄杓が庭の隅

小泉里香

春の月バックミラーに子の寝顔
蝶々は猫を幾度もかはしけり
郵便のバイクの揺らす花菜かな
老猫は薄目開けをり春の蠅
花は葉に工事現場の昼休み
すずらんや軽音楽部募集中
夏来る先の信号すべて青

小巻若菜

アナウンスの間の空く電車うらけし
夕桜馴染みの店の暖簾押す
園庭のカラーベンチに春の雨
ティータイムはトーストにジャム蔦若葉
膝小僧抱へてしぼし春の空
春の雨柿の木坂を下りゆけ
学校のひと室びと灯る春深し

坂本和穂

八十路越えやり残しあり四月馬鹿
花と葉が入れ替はる頃水温し
ポストまで歩いて十歩春休み
湯の中に桜蕊降る小涌谷
手賀沼の水面に響く雉の声
新学期残花の下に集まれり
忘れまじドナウの旅路夏帽子

佐藤稲子

切り株のぐるり銀杏のひこばえが
灯籠をかこんでぬたる黄水仙
永き日の太鼓に合はせ湯もみ歌
湯畑の硫黄の匂ひ春日影
古井戸の太き竹蓋えごの花
咲き盛る茨の花の暮るころ
梅雨近し腐葉土作る箱ひとつ

眞田忠雄

墓地へゆく道にあかるくヒヤシンス
屋根替の祠に花の散りしきる
もりもりと田を持ち上げて紫雲英咲く
バーナーの先へ先へと野火走る
無観客のボートレースを眺めぬる
蜜蜂の尻は小振りにげんげ畑
種床を運ぶ児の背は伸びて居り

◇7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	7日(水)	PM6:00	ぎんなん会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	24日(土)	AM10:00	楽 天 会	あいバル	廣瀬雅男
	24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	2日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン5	丑久保 勲
	3日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	浦和コミセン3	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日(土)	AM10:00	楽 天 会	あいバル	廣瀬雅男
	28日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

NHK大崎教室 8月は休講です。(オリンピックのため)

8月15日(日)の吟行。集合10時。

集合場所 JR京浜東北線・北浦和駅。

吟行地 さいたま市・見沼。

句会場 浦和コミセン・第3集会室。

◎連絡先

秋山信行	☎ 048-874-0555	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856